

開発途上国の生産現場から見たフェアトレード・有機認証

2012年7月5日

立教大学 21世紀社会デザイン研究科

牧田りえ

WE CERTIFY



背景

- ◎ 発展途上国の農村開発にとっての重要課題：貧困削減と環境の持続性
- ◎ フェアトレード運動と有機農業（運動）は共に両課題の達成に貢献する可能性がある
- ◎ 「北」の市場から求められるフェアトレード・有機のダブル認証

フェアトレード認証

- ◎ 「南」の小規模生産者にとって、輸出市場へのアクセスを最も可能にする手段
- ◎ 認証は特定の産品に対して与えられる。
- ◎ 他経路への販売よりも好ましい点：最低保証価格、フェアトレード・プレミアム
- ◎ フェアトレード生産者が遵守すべき事項：
 - 民主的に運営された組合組織、よりよい労働環境・労働条件の提供
 - 有機農法、または環境へ配慮した農法

有機認証

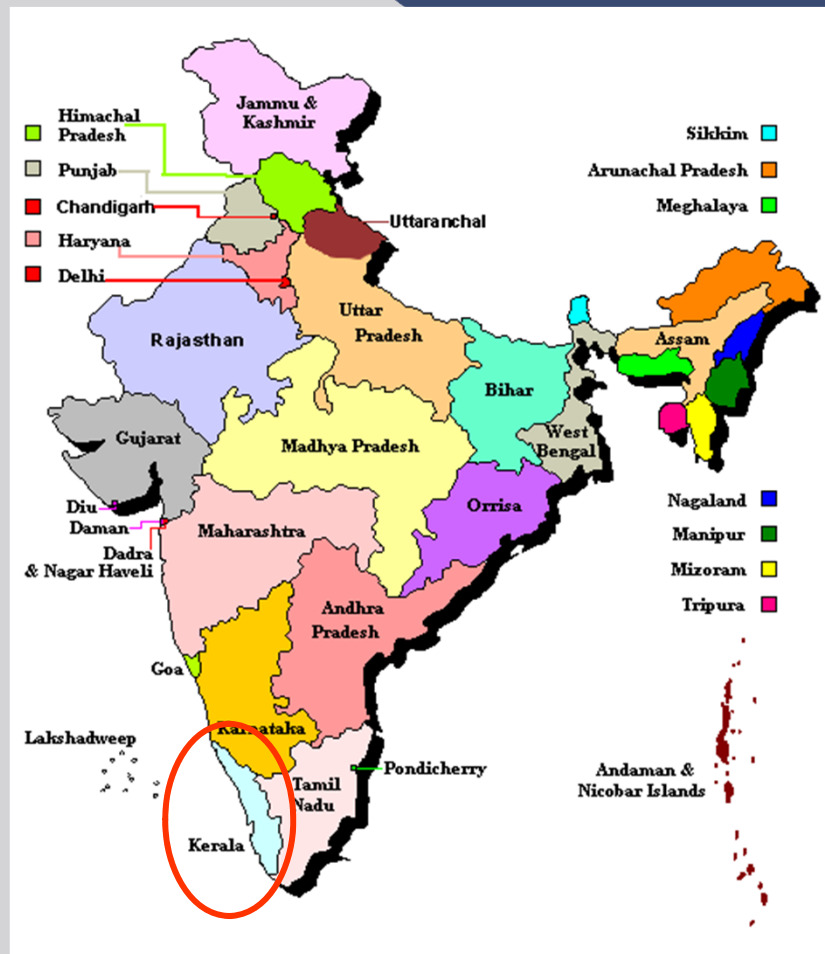
- ◎ 「北」の消費者のために生まれた仕組み。
- ◎ 「南」の小農・零細農民の多くは伝統的に有機農法（自然農法）を実践。しかし「南」では有機市場が育っていない。
- ◎ 「南」の農産物が「北」に新たな市場を見つける機会を提供。価格プレミアムが付く。
- ◎ 認証の取得には小農よりも大農（富裕農民）やプランテーションの方が有利。
- ◎ 生産単位（農場）に対して与えられる。

2つの研究課題

1. 「南」の零細・小規模生産者はダブル認証のジレンマ（特定の作物に注力すべきか、それとも農場全体の生物多様性・土壌の肥沃度を重視すべきか）にどのように対応するか。
2. プランテーション経営者ではなく、労働者は各々の認証をどのように認識し、どのように便益を得ているのか。

⇒ インドにおける2つの事例研究

事例1. 南インドでダブル認証の 取得を目指す小農組合



ケララ州丘陵部のNGOのプロ
ジェクト: 小農(5エーカー未満)を
組織化し組合をつくる。
組合員の生産物を輸出するため
に有機認証とフェアトレード認証
の取得を目指す。

生産物: コーヒー, ゴム, カカオ,

2008年11-12月 &

(2008)

仲介役のNGOによる支援

- ◎ 有機農法の奨励・普及：

液体状のバイオ肥料を導入

- ◎ コーヒーをフェアトレード製品にするための特別の支援：

成熟実を収穫直後に市場価格よりも高い

価格で買い付け；新方式による一次加工設備の設置；

輸出に適した品種の苗木を低価格で供給（購入補助金）

- ◎ 生産者グループ組織化のための支援：

グループ預金口座の開設 → 銀行ローンへのアクセスを可能に



1 グループ内での異なる反応

フェアトレード・有機農業への 取り組み姿勢	生産者のタイプ
両方に積極的	A. 専業・商業的農民
有機農業のみに積極的	B. 専業・自給農民 D. 貧しい兼業農民（農業労働＋耕作）
フェアトレードのみに積極的	C. 裕福な兼業農民（非農業＋耕作）
両方に対して消極的	D. 貧しい兼業農民（農業労働＋耕作）



生産者のタイプ別の特徴

	<u>Type A</u> 専業・商業的	<u>Type B</u> 専業・自給	<u>Type C</u> 兼業・裕福	<u>Type D</u> 兼業・ 農業労働
最大の収入源	耕作	耕作	非農業	労働賃金
扶養家族の人数	少ない	少ない	少ない	多い
不法占拠で耕作している土地	有り	なし	なし	なし
銀行ローンへのアクセス	有り	有り／なし	有り	なし
現金の流動性	低い	高い	低い	最も高い

A: 専業・商業的農民 (両方に積極的)

- ◎ 不法占拠している森林地から収穫するコーヒーを販売するためにグループ有機認証を取得したい。
- ◎ コーヒーの販売経路を多様化したい。
- ◎ 農民組合を通じて、不法占拠地での栽培に対する技術的・財政的支援を期待する。



B: 専業・自給農民（有機農業のみに積極的）

- ◎ 年間所得の最大化よりも通年で収入を確保することを重視 → 栽培作物の多様化
- ◎ 生産コストの削減・収入増加を図る:
 - 導入されたバイオ肥料を化学肥料の安価な代替物として歓迎
 - 収穫直後のコーヒー実をNGOへ販売するのではなく乾燥・脱穀してから販売する
- ◎ 緊急に現金を必要とする際にはコーヒー（樹木）をリースに出す
- ◎ 価格の変動に敏感: コーヒーからゴムへ作付け転換



C: 裕福な兼業農民 (フェアトレードのみに積極的)

- 農業は維持したいが、農業に多くの時間を割けない

→ 収穫後すぐにコーヒー実を買い付けてくれることを評価（収穫後処理・運搬の手間が省ける）

- バイオ肥料購入・使用の規則（固定された生産日時、購入後24時間以内の施肥）に従うのが難しい。



D: 貧しい兼業農民 (有機農業のみに積極的/両方に消極的)

- ◎ 雇用労働者として多忙。しかし、自身の土地からの収益を可能な限り最大化したい。(自給農民と同様の反応)
- ◎ 化学肥料からバイオ肥料へ切り替え。(生産コストを下げられる。施肥が簡単。)
- ◎ バイオ肥料すら高コスト：農業支援よりもグループ貯金のスキームにより引きつけられた。



事例 1 の結論： フェアトレードと有機農業の合体

理論的には、	現実には、
ダブル認証によってアクセスできる市場が拡大する。	単一の作物の 販売経路を多様化 することに取り組む余裕のある生産者のみに適用される。
二つの合体は、それぞれ単独の場合よりも貧困削減と環境の持続性により大きく貢献する。	各生産者の 生計戦略 次第である。
フェアトレード認証は、有機農業の価値を生産者に実感させるのに役立つ。	部分的には成功。 しかし、有機農業の価値は必ずしもフェアトレードの対象に選ばれた特定作物とは結び付かない。

2年後の追跡調査で . . .

- ◎ 有機農業の普及が膠着状態。（メンバーの足並みが揃わない）
- ◎ NGOはフェアトレード認証（必ずしも有機でなくてもよい）の取得準備に特化し始める。
- ◎ しかし、組合設立当初から参加している組合員の同NGOへのコーヒー販売が伸び悩む。
- ◎ 同NGOはプロジェクトの対象エリアを拡大し、コーヒー生産にもっと積極的な農民の組織化に着手し始めた。
- ◆ フェアトレードがターゲットとしている小規模生産者がフェアトレードから除外される可能性を示唆。

事例2. インドの紅茶プランテーション

- ◎ 茶園主・経営陣は独立生産者と同じ便益をフェアトレード・有機認証から得る。
- ◎ 労働者の便益は間接的：A.認証に要求される労働条件の改善、B.売上に応じて支払われるプレミアム
⇒A, Bともに経営陣が提供する環境（裁量）次第
- プランテーションに伝統的に存続してきた経営陣と労働者のパトロン=クライアント（P-C）関係に着目し、労働者の視点から認証の意味を再考する。

P-C関係の一般的概念

- ◎ より高い社会経済的な地位にある者（パトロン）がその影響力と財力を行使してより低い地位にある者（クライアント）に保護や便益を与え、交換にクライアントはパトロンへ支持や役務（個人的奉仕を含む）を与える二者間関係（Scott 1972）
- ◎ 両者の互惠関係の強弱を、好き嫌い・抑圧の度合いでなく、物・サービス提供の遵守・応諾の度合いで捉える。

インド茶園セクターの歴史（１）

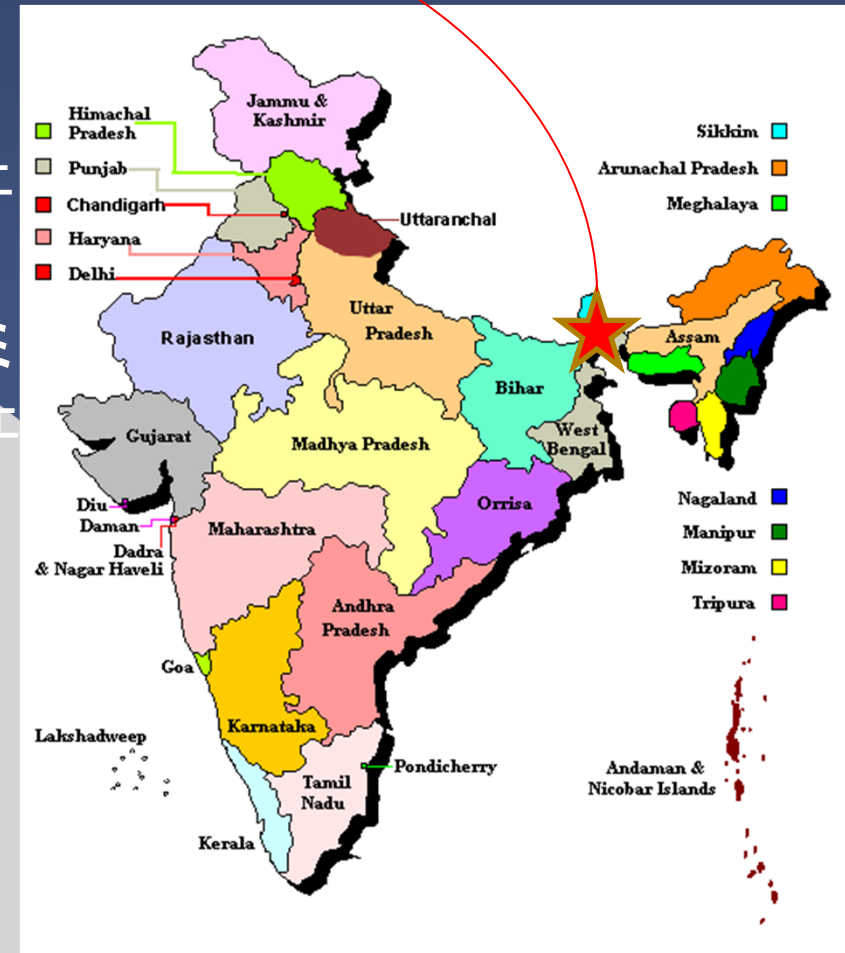
- ◎ 英国植民地時代、飢餓地域から労働者を集める ⇒ 低賃金での囲いこみ
- ◎ 労働力再生産のため、家族単位での移住（茶摘み労働者として好まれる女性）
- ◎ 茶園は治外法権の王国：主人＝従僕関係の確立
- ◎ 労働者世帯に許可された耕作・家畜飼育（低賃金の埋め合わせ、茶園に縛り付ける方策）
- ◎ インド人土地所有者階級の茶園主の登場

インド茶園セクターの歴史（2）

- ◎ 独立後、茶園主は支配者から保護者へ。労働者の福利厚生への配慮
- ◎ 1951年プランテーション労働法の制定、但し1990年代になっても十分に守られていない
(⇒フェアトレード導入の意義)
- ◎ 茶園内のヒエラルキー：①茶園主・経営陣、②上級管理スタッフ、③下級管理スタッフ、④労働者（畑・工場・その他）
- ◎ グローバル化の影響：他の紅茶生産国との競争、茶園主の紅茶部門以外への投資
⇒**総体的にP-C関係が弱まる方向へ**

ダージリン地域の茶園で調査

- ◎ **S茶園**：最も早くフェアトレードと有機認証を取得、NGOによりコミュニティ開発プロジェクトを実施
- ◎ **データ収集**：1つの労働者コミュニティ全62世帯より、①フェアトレード認証、②有機認証、③NGOプロジェクトに対する労働者の認識について。関係者からの補足情報。
- ◎ **実施時期**：2009年5月～6月



広がる労働者世帯間格差



主な収入源	世帯数
茶園の常勤労働者	4 2
茶園の臨時労働者	2
茶園以外での雇用	1 6
年金	2
合計	6 2

➤茶園の伝統的システム：親が定年退職しないと子供は雇用されない ⇒茶園外に職を求める ⇒弱まるP-C関係

➤就職できない高学歴若年層の増加（でも、茶園での肉体労働はイヤ・・・扶養家族として茶園に留まる）

クライアントの二分化：A. パトロンに依存する必要のない世帯 B. パトロンに依存しなければならない世帯

労働者の認識：フェアトレード認証

ジョイント・ボディについて

認識レベル	世帯数
全く聞いたことがない	1 1
名前だけ知っている	1 8
ある程度知っている	3 3
メンバーだけ	(10)
活動だけ	(9)
メンバーと活動の両方	(14)
合計	6 2

メンバーの選出に参加した	0
ジョイント・ボディの資金源を知っているか？	茶園主？ 寄付？



これまでに規定以上の福利厚生サービスを受けたことがあるか？

	世帯数
何も受けていない	2 2
受けた	4 0
合計	6 2

S茶園におけるF/Tプレミアムの使途

(2006年4月～2007年3月、2007年4月～2008年3月)

- ◎ ホームステイ・プロジェクト
- ◎ 苗木づくり
- ◎ 植林
- ◎ 有機肥料づくり
- ◎ バイオガス・プロジェクト
- ◎ 医療費の支払い
- ◎ 教育支援
- ◎ 冠婚葬祭への補助
- ◎ 臨時雇用者の賃金
- ◎ 茶園訪問者にかかる出費



1. 既存のP-C関係が労働者のフェアトレードに対する認識に与えた影響

フェアトレードの不可視

- ◎ 経営陣がジョイント・ボディ(JB)及びソーシャル・プレミアムが労働組合の過激なメンバーに利用され、労働組合の強化につながるのを恐れる。(ヒエラルキーの維持)
- ◎ 経営陣に恩を感じている(従順な)管理スタッフをJBメンバーに任命。
- ◎ JBメンバーは無報酬の仕事に時間を割きたくない ⇒ 不活発なJB ⇒ 一般労働者に流す情報を持たない。
- ◎ 経営陣が実質的にプレミアムを運用。

2. フェアトレードが既存のP-C関係に与える影響

- ◎ フェアトレードの不可視 ⇒ 「プレミアムによる）福利厚生改善は経営陣のお蔭、ありがたい」
⇒ 茶園経営陣と便益を受けた者との間のP-C関係の強化
- ◎ JBメンバーを引き受けた者：経営陣に対して遵守レベルのアップ（経営陣とのP-C関係強化）、自分の管轄下の労働者に優先して便益をまわせる（下級労働者とのP-C関係強化）⇒ヒエラルキーの維持

労働者の認識：有機認証

- 「認証」について労働者に説明されていない。
が、有機栽培は労働者の生活に根付いている。

1. 既存のP-C関係は労働者の有機農業への認識に影響は与えていない。



2. 有機認証が既存のP-C関係に与える影響：
有機農法により堆肥づくり等、
追加的臨時雇用が生まれる
⇒ 経営陣と便益を受けた労働者との間のP-C関係強化

労働者の認識：NGOによるコミュニティ開発プロジェクト

認識レベル	世帯数
全く聞いたことがない	4
名前だけ知っている	4
会合に参加したが、直接の便益は受けていない	18
会合に参加し、直接の便益を受けた	36
合計	62



1. 既存のP-C関係はNGOプロジェクトに対する認識に影響を与えていない。
2. フェアトレード・プレミアムによるNGOプロジェクト(フェアトレードの不可視) ⇒ 「NGOの支援によって自分たちが実施したプロジェクト！」 ⇒ 既存のP-C関係に影響せず

3つの介入とパトロン=クライアント関係

	1. 既存のPC関係が労働者の認識に与える影響	2. 介入が既存のPC関係に与える影響
フェアトレード認証	有り	有り（強める）
有機認証	なし	有り（強める）
NGOプロジェクト	なし	なし



事例 2 の結論：

茶園労働者のためにフェアトレード ・ 有機認証が果たす役割

- ◎ 茶園の不均衡な力関係を是正する方向には働かず、既存のパトロン=クライアント関係を強化する方向に働く。
- ◎ 認証によるP-C関係の強化は、**茶園内でしか生計を立てられない人々**にとっては必要である。
- ◎ 問題は、その便益が**特定の労働者に偏り**、必要とする者すべてに行き渡らないこと。
- ◎ 解決策として、**プレミアムの運営**を茶園のヒエラルキー構造の外にいる**第三者機関**（NGO等）に託すことが有効。

2 事例からのインプリケーション

認証を介した倫理的消費の限界

1. 「南」の生産者を支援するために導入されたフェアトレード認証の恩恵を受けられない小農・労働者の存在。
2. 「南」の小規模生産者が「北」の有機市場へアクセスする上での多くの障壁。
3. 「北」でダブル認証を重視する傾向が強まれば、上記の問題がより顕在化する可能性（認証の逆説）。

出所

- ◎ Makita, R. 2011. A confluence of Fair Trade and organic agriculture in southern India. *Development in Practice* 21(2): 205-217.
- ◎ Makita, R. 2012. Fair Trade certification: the case of tea plantation workers in India. *Development Policy Review* 30(1): 87-107.